

授業科目	心理学研究法特論		担当教員	岡嶋 一郎	
展開方法	講義・演習	単位数	2単位 選択	開設時期	前期
【授業目標】					
<p>各受講生が、研究の目的に沿った研究計画の立て方、研究実行段階における留意事項、回収するデータの種類とそれに応じたデータ分析の手法の各点に答えられるようになること。</p>					
【授業方法】					
<p>①テキストを使って予習 ②講義内容のテキスト・プリント・ノートへの書き込み ③論文事例を通じた講義内容の確認、新出用語の自己学習 ④論文事例の発表と質疑応答を通じた、学習内容の深化 ⑤身近な課題をテーマとする小研究の実施を通じた、学習内容の定着</p>					
【授業計画】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 目的および研究計画のタイプ（比較・関連・影響・探索） 3. 尺度水準とデータ分析 4. （比較） 1 要因 被験者間計画と実行上の留意点 5. （比較） 1 要因 被験者間計画のデータ分析 6. （比較） 1 要因 被験者内計画と実行上の留意点 7. （比較） 1 要因 被験者内計画のデータ分析 8. （関連・影響） 研究計画と実行上の留意点 9. （関連・影響） データ分析 10. （影響） 2 要因計画の種類 11. （探索） 多様なデータから共通要素を見つけ出す方法論 12. 論文事例から研究方法を学ぶ 13. 論文事例から研究方法を学ぶ 14. 論文事例から研究方法を学ぶ 15. 論文事例から研究方法を学ぶ 					
【評価方法】					
<p>論文事例の提供とその内容：40% 出席と授業態度：20% 学期末レポート：40%</p>					
【教科書・参考書】					
<p>教科書 浦上昌則・脇田貴文（2008）. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 東京図書 参考書</p>					
【学生に期待すること】					
<p>授業中の知識吸収はもちろんのこと、次の授業外の学習を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①前半ではテキストを使って予習・復習を行うこと。 ②後半では論文事例の発表準備と予想される質疑応答への対応を考えること。 ③全体を通して、与えられたデータセットから研究目的に沿ったデータ分析を行い、適切な書式によりレポートとして結果を報告すること。 					